



安積山

郡山市立日和田小学校

学校 便り No.33

令和4年8月29日

文責：校長 伊藤 孝行

今月の掲示（校長室廊下掲示板）



担当の先生が工夫を凝らし、子どもたちを楽しませてくれる掲示をしてくれています。

甲子園優勝と「白河の関越え」ということ。

高校野球の準決勝の頃から、「こんどこそ優勝旗が白河の関を越えるか」が話題になっていました。

決勝戦の結果、宮城県代表の仙台育英高校が優勝して、優勝旗が宮城県にもたらされました。



では、甲子園優勝旗が「白河の関を越える」というのはどういうことを表しているのでしょうか？夏の甲子園大会は今年で104回を迎えましたが、過去103回東北地方から優勝チームが出ていませんでした。第87回大会では、田中将大投手（現楽天）を擁する駒大苫小牧高校（北海道）が優勝し、東北を越え一気に北海道に優勝旗が渡ってしまいました。東北地方の人々にとって、夏の甲子園大会で東北6県代表の高校が優勝することは長い間の願いでした。

続いて、なぜそこに「白河の関」が登場するのでしょうか？「白河の関」とは、鼠ヶ関、勿来関とともに奥州三古関の1つに数えられる関所で、奈良時代には作られ、平安時代中期（1000年頃）まで使われていたそうです。

この関所の役目は、東北地方から関東地方や都

への人の出入りを監視することにあります。

そこで、人の出入りに厳しい関所と東北地方の高校がなかなか優勝できない難しさを合わせ、「白河の関越え」という言葉が出来上がりました。



今回、仙台育英高校により白河の関越えは果たされました。次は、福島県に優勝旗がやって来ることを楽しみにしたいと思います。

この手があったのか「夏休みの自由研究」

夏休みの自由研究で頭を悩ませたご家庭もあると思います。私も子どもが小さい頃は、悩んだ経験があります。夏休みも終わり大変申し訳ありませんが、夏休みの自由研究の話題でとてもおもしろいものがありましたので紹介します。



6年生の女の子が、「どうしてきょうだい喧嘩がおこるのか？」というテーマで自由研究を行いました。この女の子は、4人きょうだいの一番上で、下に弟（8歳）、妹（5歳）、弟（3歳）がいます。

研究内容は100回のきょうだいげんかについて、誰と誰がけんかしたか、どんな理由でけんかになったかなどを調べ分析したものです。

これを知ったとき「この手があったのか」と感心してしまいました。さらに、この自由研究の一番の良さは、自分の生活と直接結びついているということです。来年、自由研究に取り組んでみる人は、自分の生活の中からテーマを見つけ研究してみるのも良いことだと思います。